

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年4月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072900337
法人名	有限会社 大原ウエルフェア
事業所名	グループホーム 大原苑
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市大板井391-36 (電話) 0942-73-1218
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年3月12日

## 【情報提供票より】(平成21年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造平屋造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( ) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年2月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、島田病院、河原内科クリニック、本間病院、福山泌尿器科、さくら歯科
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム大原苑は、子どもから高齢者までの地域福祉ニーズに応えるべく、保育事業50年の歴史を持つ社会福祉法人井筒会の理事が開設したグループホームである。小郡市街に近い閑静な住宅街に保育園があり、その隣に建てられている。職員と利用者で考えるバラエティに富んだ手作り料理やレクリエーションなどでは一人ひとりが持てる力を発揮できるように支援している。管理者や職員は、日々の暮らしが穏やかに過ごせるように支援している。また、運営改善に向けても熱心に取り組んでいる。年々、その成果は出てきており、現状に満足せず、新たな改革への意思を持ち、更なる質の高いケアやサービスの提供を目指して取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価は運営推進会議にも報告し、全職員で検討が行われた。「地域密着型サービスとしての理念」「職員を育てる取り組み」「同業者との交流を通じた向上」の項目も具体的な改善がなされた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を行い、職員のスキルアップにも活かしている。自己評価により、職員一人ひとりが現状を客観的に把握し、問題点や課題などを掘り下げ、ケアやサービスの質を振り返る機会として活かしている。自己評価は管理者が一つにまとめている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催されている。ホームの運営状況の報告を行い、運営推進委員からは質問等があるが、出された意見は職員会議の議題にあげ、取り組むべき課題を抽出し運営に反映している。会議には利用者・家族の参加もあり、発言は貴重な意見として真摯に受け止め、質の向上に取り組んでいる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 玄関に苦情受け付けボックスやノートを置き、オープンに意見を言ってもらえる体制が取られている。長期入居されている方の家族などは直接管理者に話してもらえる関係が築かれており、十分な時間を取り対応を行っている。出された意見については、会議などで話し合い、運営に反映していくように努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設より5年を経過し町内会にも加入しており、地域からも理解や協力が少しずつ得られている。今年度は例年にも増して町内会に行事参加を行い、利用者と地域の方々の関わりが広がってきている。町内会の清掃活動や会合などにも必ず管理者が職員が出席しており、今後も地域との連携を高めていきたいと考えている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前年度の外部評価の結果をふまえ、「地域の中で楽しく暮らそう、向かいのおばあちゃん、裏のおじいちゃん一緒に輪になって語ろうよ」と地域の一人としての自覚を持ち、広く地域福祉に貢献する意味が込められている、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や食堂に掲示し、会議などで唱和している。理念を職員全員が理解し、日々の業務の中で理念に立ち返り、理念にもとづいたケアやサービス提供ができるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設より5年を経過し町内会にも加入しており、地域からも理解や協力が少しずつ得られている。今年度は例年にも増して町内会に行事参加を行い、利用者や地域の方々との関わりが広がってきている。町内会の清掃活動や会合などにも必ず管理者か職員が出席しており、今後も地域との連携を高めていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解している。前回の評価は運営推進会議にも報告し、全職員で検討が行われた。「地域密着型サービスとしての理念」「職員を育てる取り組み」「同業者との交流を通じた向上」の項目も具体的な改善がなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、本人・家族・自治会役員・民生委員・老人会・小郡市の介護保険課職員や包括支援センター職員などの参加があり、状況報告・意見交換等行っている。地域との交流やグループホームの運営・現状などが話し合われ、サービスの質の向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が主催する勉強会が2・3ヶ月に1回開かれており毎回参加している。その他、困難な事例を市担当者と一緒に話し合っており、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については小郡市が主催する研修に参加しており、伝達講習も行っている。現在この制度の利用者はいないが、今後必要な人にそれらを活用できるように取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、利用者の日常生活や職員の異動報告、行事参加の様子など写真付きで送っている。個人的には必要時に担当職員から電話で生活状況・金銭出納の報告をしている。それ以外にも健康状態の変化など管理者や担当者が電話連絡を行い、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、家族面会時に不満や苦情や意見を話していただけるように、声かけや対応を工夫している。出された意見については記録に残し、職員会議で話し合い運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職を抑える努力をしているが、職員の病気入院等でやむを得ず代わる場合は、新規採用後1ヶ月間は日勤中心の勤務としている。また、必要人員以外の人員として管理者や慣れた職員と一緒に行動し、利用者や馴染みの関係を築けるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については特に条件は設定していないが、長く勤めてもらうためにも、人当たりがよく、高齢者に対する想いがある方を採用している。管理者は、職員が生きがいをもって勤務できるように一人ひとりの個性を活かし、向上心を持って働けるようにサポートしている。また、管理者はいつでも職員が相談できる関係づくりを大切にしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で開催される人権研修に毎年職員が参加しており、利用者に対する人権尊重のための職員研修会を代表職員を中心に実施して啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部への研修参加を勧めている。また、研修に参加した職員は研修内容を職員会議で報告し、全職員で共有している。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の研修等では休暇取得に配慮し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修会や文化祭に参加し準備段階の打ち合わせなどの活動を通じて職員間の交流を積極的に行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族との話し合いを行うために、職員が自宅や病院へ訪問したり、本人と家族にホーム見学に来ていただいたりして雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統行事や季節毎の料理作りなどでは、人生の先輩として学ぶことが多くいろんなことを教えてもらっている。職員が苦しいときに利用者から人生の生き方や知恵を教えられたりするなど、職員は支えられていると感じている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や関係者から十分な聞き取りを行い、利用者と行動を共にしたり会話の中から暮らし方の希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、表情やしぐさなどを観察して事業所独自の心身、生活状態チェック表に詳細に記録をとり、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医師の意見を聞き、職員会議の中でケアマネジャーが中心になって職員間で情報交換して利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議で評価を行い、変化がなければ介護計画は基本的には3か月毎に見直しを行っているが、体調変化など見直し以前に計画変更が必要な場合は、本人、家族、医師や必要な関係者と話し合っって現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診支援を行った場合でも要望があれば、病院への送迎を支援しており、家族の宿泊受け入れや食事の提供支援をしている。利用者の買い物希望への支援や、空きベットを利用して短期入所希望にも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じたかかりつけ医になっており、利用開始前からのかかりつけ医を受診する方や事業所の協力医の訪問診療を受ける方もいる。受診支援は基本的には家族支援となっているが、必要に応じて職員が同行し身体状況などをかかりつけ医へ説明して適切な医療が受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に終末期の在り方について本人、家族と話し合っており、重度化して医療行為が必要な場合は入院していただくことを説明して了解を得ている。身体状況の変化で重度化が予想される場合は、かかりつけ医や家族、関係者と早い段階から話し合っており方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応は本人を傷つけることのないようプライバシーに十分配慮しており、記録等の個人情報の取り扱いや保管も事務所内の外部者の目に触れない場所に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を早く摂る方や時間を要する方など違いがあるが、一人ひとりのペースを大切に支援している。食後ソファに横になってくつろぐ方や職員との会話を楽しむ方もいる。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に摘んできた菜の花やつくしなどを献立にとり入れて、職員と利用者が一緒に同じテーブルを囲み、同じ食事を会話を楽しみながら摂っている。テーブル拭きや食材の下ごしらえなどできることは職員と一緒にやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回日中に入浴を行っているが、希望に応じて毎日の入浴や清拭、夏場のシャワー浴なども支援している。入浴を嫌う方には言葉かけやタイミングを合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、たたみ、廊下掃除、草取り、折り紙、習字、塗り絵など、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い日におにぎりなど手作りの弁当を持って出かけたり、ドライブや外食、近道を散歩するなど一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に施錠はなく、日中玄関の施錠もしていない。運営者、管理者、職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、歩きたいと外出する利用者を引き止めることなく、少し距離を置いて後ろから見守りながら歩き、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年3月職員による避難訓練と11月には消防署立会にて利用者の避難と初期消火訓練を実施している。運営推進会議で訓練実施計画を報告して協力を求め、地域の自衛消防団や近隣住民への協力も働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は毎月担当になった職員が利用者の好みや希望を取り入れて、季節ごとの旬の食材を使った食事が提供されており、摂取量が毎日個別に記録されている。水分は食事、入浴前後やおやつ、就寝前などに水分補給の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口には季節の花が彩り良く咲き誇り、廊下壁面には利用者の日頃の作品などが飾られている。、食堂からはガラス戸越しに季節の花々が眺められ、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を飾ったりお仏壇を持ち込んで朝、夕にお参りする方、テーブルや椅子、テレビを持ち込んでいる方など本人、家族と相談しながら一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。泊まりの希望があれば、利用者と同一部屋に畳と寝具を事業所が提供してくつろげるよう配慮している。</p>		